

【評価報告書】

学校法人佐賀龍谷学園
九州龍谷短期大学附属龍谷こども園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取組		
第三者評価結果の総評		P2
第三者評価結果		P3～13
第三者評価確認書類リスト	非公表	P14～P16
第三者評価結果（詳細）	非公表	P17～P32

(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施設名称	九州龍谷短期大学附属龍谷こども園
運営法人名称	学校法人 佐賀龍谷学園
施設種別	幼保連携型認定こども園
代表者氏名	理事長 篠塚 周城
施設所在地	〒840-0054 佐賀県佐賀市水ヶ江 3 丁目 5-20
電話番号	0952-29-8411
FAX 番号	0952-29-8411
ホームページアドレス	https://www.sagaryukoku.ed.jp/kodomoen/
メールアドレス	yochien@k-ryukoku.ac.jp
事業開始年月日	2015(平成 27)年 4 月 1 日
保育者数・職員数	53 名(令和 6 年 3 月 1 日現在)
施設・設備の概要	園地総面積 2960 m ² 園舎敷地 2064.57 m ² 運動場 845 m ²

【理念・基本方針】

佐賀龍谷学園は浄土真宗本願寺派（京都：西本願寺）に属し、仏教、特に浄土真宗の開祖 親鸞聖人の教えを教育の基本理念としている。

親鸞聖人の教えとは、わたしが仏さまの智慧と慈悲に育てられ、すべての悩みや苦しみを乗り越える幸せをよろこびつつ、力強く人生を生き抜かせていただく教えである。

本園では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則り、保育の中に親鸞聖人の教えをいただきながら、心身の調和のとれた発達をはかり、一人ひとりの子どもが幸せな生活ができる生きる力の礎を築くことを目標にしている。

【施設の特徴的な取組】

- (1) ほとけさまへのお参りをとおしていのちの大切さや感謝する気持ちを持つことができる子どもの育成を行います。
- (2) シブリング・ペアリングの活動をとおして、人との関わりの基礎を培います。
- (3) 九州龍谷短期大学の附属こども園として、短大等と連携しながら教育・保育にあたります。（音楽遊び・幼児体育・英語教室・絵画教室・サッカー教室）

【評価機関情報】 事務局記載

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	令和 6 年 1 月 23 日
評価者	R01A01346、H29B00644
ECEQ®コーディネーター	EH27410172、EH27410171、 EH26410110

【総評】

●総合評価

評価〔 A 〕

地域の乳幼児教育施設として、重要な役割を担っている。保護者からの信頼も厚く、園の教育・保育理念について理解を得ており、子どもの育ちを子どもの視点から保障している姿がよくみられる。

地域の教育・保育の拠点として、0歳児から学童期までの子どもの育ちを支える姿勢が評価できる。短大や高校とつながっていることで、乳幼児教育・保育の研修環境に大変恵まれていることは強みだと思われる。今後更なる乳幼児教育・保育の質向上に継続的に取り組まれることを期待したい。

●特に評価が高い点、園の良さ等

教育・保育面では、宗教的なバックボーンに支えられた教育理念が浸透しており、子どもの人権に配慮しつつ、一人一人を大切に育もうとする保育者の姿勢が評価できる。

運営面では、短大・中高・幼稚園を統括する本部で行っていることから、運営や労務管理が適切に行われている。就業規則はすぐに WEB で閲覧できることで、就業規則通りに雇用者と労働者の権利が守られていることを伺い、評価が高い点として挙げさせていただく。

●課題、改善を求められる点

子どもたちの生活がクラス遊びから戸外遊びと、それぞれ時間が決められているので、戸外遊びを含めた子どもたちの主体的な学びや遊びをどのように保障するのかを教職員と話し合っていくと良いのではないかと。

中高の敷地内に幼稚園があることから、車での送迎や園バスの乗降時は安全性が高いが、聞き取りの中で出入口に防犯面の課題があると伺った。今後防犯対策の補助金を使い改善するとの回答をいただいた。安全管理の課題として4点課題があった。すぐに改善できる課題なので教職員と話し合い改善を求める。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

幼保連携型認定こども園に移行して9年が経過する。第三者評価を受けることに対して、非常に不安があったが、高い評価を頂き、嬉しく思う。今後も、子どもを真ん中に考え、こども園の教職員、保護者、そして地域の方と連携を密に図りながら、更なる教育・保育の質向上を目指して精進していきたい。

【第三者評価 結果】

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

自覚的な良さとしては、園（経営者側）と職員との関係性の良さが挙げられる。毎年の個人面談では「働きやすい園である」という声がよく聞かれるとのことで、それを裏付けるかのように離職率が低く、非常勤職員の復帰率も高いとのこと。また訪問時に職員間関係性の良さもうかがい知ることができた。また保護者との関係性も良く、トラブルはほとんど見られないとのこと。日頃からのコミュニケーションや教育・保育に対する丁寧な説明が功を奏していると思われる。一方課題としては、常勤と非常勤職員との関係性が円滑ではないと感ずることがあることと、園内研修がなかなか出来ていないところに課題意識を持っておられる。

2. 公開保育実施前後における課題等

①公開保育実施時の課題等

<3歳児>好きな遊びの中で、友達や保育者との関わりを楽しめているか。身近な素材などを使って、表現することを楽しんでいるか。

<4歳児>好きな遊びを見つけて、自分のイメージや考えを表現することを楽しんでいるか。遊びや関わりをより深めていくためには、どのような環境の工夫があるか。

<5歳児>好きな遊びを深め、様々な道具を使いながら、のびのびと遊ぶことができる環境が整っているか。友達同士で一緒に作り上げていくことの楽しさや、子ども同士による伝え合いが見られたか。

②公開保育後の協議会における外部から見た良さや課題

<3歳児>自由に遊ぶ時間が確保され、遊びこむ姿が見られた。保育者も一緒に遊びこむ姿が良かった。豊富な素材の補充や整理はどうするのか、作ったものはその後どうするのか、という問いかけがあった。

<4歳児>豊富な素材が用意されていて、製作あそびからごっこ遊びに自然と発展していた。声かけが最小限で子どものイメージを尊重している。

<5歳児>お店やさんごっこでは、それぞれが役割分担をして、言葉のやりとりも活発に行い、年長児らしい姿が見られた。課題としての意見は聞かれなかった。

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

保育者一人一人が、子どもたちに丁寧に関わり、それぞれのクラス文化が築き上げられていることに自信を持ち、今後も園と家庭が協力しつつ、子どもの成長を見守り、共に喜び合う関係性が持続されるよう期待する。当初の課題として挙げられていた常勤・非常勤職員の関係性、幼稚園部分と保育園部分のつながりについては、今回の公開保育に至るプロセスの中で、全員でSTEP2に参加して、意見交換が出来たことがきっかけとなって、今後の園内研修を通して、少しずつ前進していくことと期待している。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< A 教育・保育 >

① 子どもの人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達之差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、保育者と子どもに、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未
<p>（コメント）</p> <p>浄土真宗本願寺派の宗教的な基礎をベースに、子ども一人一人の人権に配慮した教育・保育を実践されている。保育者も穏やかに子どもたちに接しており、公開保育時にも、それぞれの今の姿をありのままに受け止め、主体性を大切にされた教育・保育に努めておられる姿が見られた。</p>		

②保育者等の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者等の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	保育者等一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	保育者等一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育者として豊かな感性を養ってほしいという願いから、職員研修に「劇団四季」などの観劇も取り入れたとお聞きして、管理者の配慮に感銘を受けた。一方で園全体を貫いた園内研修、ということを課題として挙げられていたが、STEP2で実現したことで、今後の研修意欲の醸成につながっていくことを期待したい。何より、保護者との関係性が良好であることや、龍谷高等学校保育コース、九州龍谷短期大学との密接なつながりは、研修体制構築のための強みである。</p>		

③教育・保育における実践

1) 子ども理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を保育者全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。	済・未
3	子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を保育者間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか、記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>個々の保育者は、日々の子どもの変化に気づき、それを内省と共に記録することで、次の保育実践につなげている。そのことは公開保育時の子どもへの接し方や、言葉かけからも感じることであった。また子どもの成長をつぶさに見つめ、保育者間で共有すると共に、面談等を通して保護者とも共有し、共に喜び合うことが園全体で実践されている。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未

2	子どもの発達のプロセスや発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>自園の教育・保育理念を十分に理解して、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即した教育課程を作成している。またそこから各学年の保育計画に落とし込んで実践がなされているが、日々の子どもの変化、環境の変化に応じて柔軟に対応できるよう、保育実践に工夫がなされている。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未

5	<表現活動について>多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもが十分に体を動かして遊びこめる園庭空間や大型、小型遊具の配置がなされているのと同時に、定期的な点検がなされることや、保育者の配置、見守りによって安全面への配慮がなされている。また衛生面ではダスキンとの提携で、より徹底した施設衛生管理が施されており、預ける保護者の信頼にもつながっているものと思われる。</p>		

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	済・未
2	<p>子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子どもが周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	済・未
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	済・未

4	<p>子ども一人一人の特性や発達のプロセスに応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達のプロセスや生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	済・未
5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	済・未
<p>(コメント)</p> <p>0歳～2歳児のクラスでは、適正な人員配置の下で、子どもが安心して穏やかな園生活を送れるように、日々家庭と連携しながら実践を積み重ねている。3歳～5歳児クラスでは、一人一人が思い思いに遊び込めるような環境構成の工夫が施され、保育者は子どもの思いを受け止めながら、適切な関わりによって、学びにつなげようとしている。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、実践の振り返りと評価をする機会がある。	済・未
4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子どもの育ちや実践のプロセス、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育者は日々の保育実践を自省と共に振り返り、それを継続的に記録することで、次の実践につなげている。またその記録を他の保育者と共有することで、子どもを多面的に理解しようと努めている。現在は手書きの記録を活用しているそうだが、今後 ICT 化に挑戦することで、保育者の負担軽減にもつながるものと期待したい。</p>		

④家庭や小学校、地域との連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・学校関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子育てサロン（毎週実施）の実施で、子育て相談等に応じたり、専門分野の指導者を招いて子育て講演会を開くなど、地域における幼児教育センターの役割を担っている。またコロナ禍で途絶えていた小学校や地域とのつながりも徐々に元に戻り、園内だけに留まらず、機会を捉えて交流を深めることで、子どもの多様な経験を育むと共に、外部にも乳幼児教育・保育の重要性を発信している。</p>		

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

① 運営体制

	調査項目	確認結果
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未
3	会計事務を適切に行っている。	済・未
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未
7	学校評価を実施している。	済・未
8	適正な法人運営を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>学校法人佐賀龍谷学園は短期大学・中高・幼稚園を運営し、とてもガバナンスが強化されていた。認定こども園への移行後も、安定した財源の確保、園児数の維持がなされ、地域からの信頼も厚く地域と密着した学園であることが感じ取れた。</p>		

②安全管理

	調査項目	確認結果
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>安全管理について、各種マニュアルが整備され、教職員、保護者にも周知徹底されている。地域の特性に応じて、様々な想定をしながら毎月の訓練もなされ、非常時への備えがなされている。園庭遊具では毎月チェック表に基づく安全点検が行われていた。今後の改善として4点あげさせていただく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 危機管理マニュアルや避難訓練に J アラートを想定したマニュアルの整備と、避難訓練の実施を推奨する。 2. 数年に一度は遊具専門業者による遊具点検（錆・腐食・破損・緩み・摩耗・ぐらつき）を実施すると良い。 3. トイレの掃除道具入りに掃除薬品が子どもの手の届く場所に保管されていた。誤飲等を防ぐため鍵付きの道具入れに保管する、子どもの手の届かない位置に保管するなど改善したほうが良い。 4. バス運転手のアルコール検査の実施と記録を送迎前後に行うようにする。 (道交法 第九条の十 法第七十四条の三第二項六・七) 		

③子育ての支援

	調査項目	確認結果
1	子どもの発達や学びが、小学校教育につながるように小学校との連携をはかったり、地域の関係機関や団体と連携をはかったりしている。	済・未
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取組を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子育て支援のための部屋も整備され、必要とする親子が気軽に利用できるよう配慮されている。定期的な子育て支援の集いでは、室内だけでなく学園保有のサッカーグラウンド（芝）を利用するなど環境面にも考慮して実施している。</p> <p>教育相談に応じて、地域の乳幼児教育センターとしての役割を担っている。幼保小連携では、隣にある佐賀大付属小学校との連携を密に行っていることが確認できた。</p>		